2014 年度春学期修士論文テーマ一覧

2014 年度春学期において、修士論文を提出し、修了が認定された修了生について、氏名と研究テーマを以下に示します。

氏　名：五十嵐　翼
題　目：「地域性」の探求を通じた当事者意識の涵養に関する実証的研究～山古志の次世代を担う子どもたちを対象に～
梗　概：本研究の目的は、新潟県長岡市山古志地区の子どもたちを対象に、「地域性」の探求を通じて、未来の山古志に対する当事者意識を涵養することである。

「地域性」とは、風土が創造してきた要素や性質である。実践研究では、子どもたちとともに、地域を取り巻く自然環境や、固有の伝統文化の探求を行った。

その上で、自己にとって山古志が“かけがえのない地域”であるという意識を育むことができた。

そして、その意識を行動に移す活動として、「やまこし未来の木プロジェクト」を発足させた。子どもたちが主体性を持って、プロジェクトに関わる姿から、当事者意識の涵養を確認できた。

筆者は、今後もレジデント型研究者として、山古志のアクション設計に関わっていきたい。

氏　名：田谷　千江子
題　目：地域子育て支援の現代的意義と今後の展開―乳幼児を抱える家庭に対する親支援施策の在り方―
梗　概：現在、子どもや子育て家庭を取巻く状況は、大きく変化し課題も多様化してきている。

本論文は、現代の子育て問題の背景を分析し、親支援の必要性を明らかにするとともに子育て支援の制度と現状や海外から導入された親支援プログラム等を通して「乳幼児を抱える家庭に対する親支援」に向けて、親になるための学びと支援方法について考察し検討した。自治体の役割は、乳幼児の子育て家庭が、孤立し「孤育て」にならないよう「親のコミュニティ形成」をサポートすること、親の主体性を育成する育成型支援を子育て支援施策に位置付けることであり、親向け及び支援者向けの学習プログラムの開発や学習内容の充実を図っていくことが今後の親支援に向けての課題である。

氏　名：韓　娟珠
題　目：非正規労働者の仕事のやりがいに関する研究
梗　概：本研究の目的は、男性労働者の仕事のやりがいと雇用形態の関係を分析することにある。

特に、以下の 2 つの問題点に焦点をあてて分析を行う。

（1）男性の場合、非正規労働者と正規労働者の間にどの程度の仕事のやりがいの差があるのか。

（2）男性非正規労働者と正規労働者の仕事のやりがいの差は、ふたつの勤務形態間に存在する職務や職場の特徴、失業不安や暮らし向きの変化、またワーク・ライフ・バランスの違いによって説明できるのか。

分析の結果、男性非正規労働者と正規労働者の間には仕事のやりがいの差があることを確認し、その差に影響する要因を検証したが、職務特性、職場特性、失業不安の要因の効果が確認された。また、仕事のやりがいに影響を与える要因も確認されたが、これは職務特性、職場特性、失業不安、暮らし向き、ワーク・ライフ・バランスの全変数が仕事のやりがいに有意な影響を与えていた。

氏　名：鄧　世敏

題　目：地域における京町家宿泊施設の役割について　―貸し切り京町家を事例として―

梗　概：本論文は、京町家宿泊施設について調べることにより、宿泊客に宿泊サービスを提供する役割以外で、地域においての役割を考察することを目的とするものである。

京町家宿泊施設は、宿泊施設より京町家という空間を提供することで、宿泊施設の役割を担いながら、地域に新たな付加価値を与えるだろうと筆者は考える。しかし、現在、地域における京町家宿泊施設の価値や文化的な役割に関する研究、そして、京都市の観光振興政策において、京町家を活かした宿泊施設の活用事例の研究は、十分に行われていない現状である。

以上の現状を踏まえ、既存の京町家宿泊施設の事例を元に論じ、その価値と役割について明らかにした。